



山口農園で栽培している
主な有機野菜。このほかにも
ハーブ類が20種類くらいある

いう研修希望者が多く集まるようになり、農園としてもこのような人材を育成しようという試みが始まりました。ただ当初は彼らに食費程度しか支給できず（寮費は農園負担）、毎月の生活費が必要となります。その点をなんとか支援できないかと関係機関に相談していたところ、管轄のハローワークから厚生労働省が実施する「緊急人材育成支援事業の職業訓練」（就農に向け農業を学びながら所定の要件を満たせば受講生に月一〇万円ほどの生活給付金が支給される制度。昨年名称変更し、現在は「求職者支援訓練」）があると伺いました。さっそく



奈良県宇陀市にある山口農園のスタッフ。右端が教育部の責任者である筆者

農業法人が有機農業の 職業訓練校を開設

牧野裕三

**有機農業を志す
就農希望者を
一人でも増やしたい**

有限会社・山口農園は、軟弱野菜やハーブなどを有機栽培（すべて有機JAS認定）している農業生産法人です。栽培面積は約一〇ha（うちハウスが約三ha）。従業員は三〇名ほど（役員四名、正社員七名、パート一八名。その他に研修生もいる）で、年間の売上は約一億二〇〇万円です。

当農園の特徴のひとつは農業職業訓練学校（オーガニックアグリスクールNARA）を運営していることです。平成二十年に宇陀市内の有機JAS認定農家と「宇陀市有機農業推進協議会」を発足させ、地域の有機農業の推進に取り組んできました。そうした背景の中、有機農業で新規就農したいと

この制度を活用し、平成二十二年四月に農業の職業訓練学校を開校する運びとなりました。

現場感覚を活かしたカリキュラム

全国でも珍しい農業生産法人が母体となった農業（有機農業を主体）の職業訓練学校です。その特色を活かすため、カリキュラムはできる限り実践的な要素を組み入れ、経営者として一人立ちできるように構成しました。

期間は半年（年二回の開校）で、生徒数は毎回一〇〜二〇名ほどです。栽培管理等の実務的な実習（全四八九時間）は、主に教育部スタッフ（専属二名）が指導しています。農業経営実践論やマーケティング論などの学科（二〇八時間）は、それぞれの専門分野を担う農園のスタッフやときには外部講師も招いて行なっています。また、農園では体験できない作物や農法等については園外実習も行ない、就農の選択肢も広げてもらっています。

カリキュラムに組み込んだ実践的な要素とは、たとえば、受講生だけの班を組み、ひとつの圃場でタネ播きから収穫までの栽培管理をすべて任せます。そこでもし失敗した場合、売上にどのような影響が出るかなども経験してもらいます（致命的な失敗がないように最低限のアドバイスは行ないます）。また、自分たちが栽培した野

農業職業訓練学校の主なカリキュラム (タイトル)

	科目	科目の内容	訓練時間
学科	開校式・オリエンテーション、修了式等	開校式・訓練の概要説明 (3時間)、修了式・求職者支援訓練修了証の授与 (2時間)	
	就職支援	応募書類 (履歴書・職務経歴書) の書き方、面接指導他 (6時間)	
	職業能力基礎講習	自己理解、仕事理解、職業意識、職場内のコミュニケーション、聴き方・話し方、ビジネスマナー	27時間
	安全衛生	農業を行なう上での安全衛生の必要性	3時間
	農業基礎知識	農業を行なう上での基礎的知識 (農業概論、有機農業概論、農業経営実践論、エコファーマー基礎知識、農業マーケティング、食品一般知識、農業一般知識)	33時間
	栽培基礎知識	作物栽培する上での基礎的知識 (作物栽培・土壌堆肥・植物生理・施肥設計・ハーブ栽培・種苗基礎知識)	24時間
	農業実習基礎知識	農業実習を行なう上での基礎的事項 (生産実習・収穫調整実習・ハウス栽培・有機ブルーベリー栽培・自然農法・ハウス建築基礎知識)	21時間
実技	収穫実習 (ミズナ)	ミズナの収穫実習	30時間
	収穫実習 (コマツナ)	コマツナの収穫実習	30時間
	収穫実習 (ホウレンソウ・他)	ホウレンソウ他の野菜の収穫実習	24時間
	収穫実習 (ハーブミント)	ハーブミントの収穫実習	30時間
	収穫実習 (ハーブ他)	ハーブ他の収穫実習	30時間
	調製実習 (ミズナ・コマツナ)	収穫したミズナ・コマツナの調製 (袋詰め) 実習	30時間
	調製実習 (ホウレンソウ・他)	収穫したホウレンソウ・他の調製 (袋詰め) 実習	30時間
	調製実習 (シーラーピッキング)	調製 (袋詰め) された商品のシーラー (袋とじ)・ピッキング (仕分け・箱詰め) の実習	18時間
	露地圃場実習	露地圃場にて受講生自らの栽培計画に基づき行なう生産実習	30時間
	農業機械実習	農業機械の基本的操作方法の実習及び現場実習	30時間
	販売実習	自社の野菜を取引先・直売所等に販売実習	30時間
	生産実習基礎 (片付け)	ハウス生産実習の残渣片付けについての実習	30時間
	生産実習基礎 (施肥)	ハウス生産実習の施肥についての実習	30時間
	生産実習基礎 (耕起)	ハウス生産実習の耕起と地水についての実習	24時間
	生産実習基礎 (播種)	ハウス生産実習の播種と散水についての実習	21時間
	生産実習基礎 (除草)	ハウス生産実習の除草についての実習	24時間
	生産実習実践 (ハウスⅠ)	ハウスの栽培管理を一連の流れで担当 (ハウスⅠ棟目) し実践的に生産管理を行なう	30時間
	生産実習実践 (ハウスⅡ)	ハウスの栽培管理を一連の流れで担当 (ハウスⅡ棟目) し実践的に生産管理を行なう	24時間
	生産実習実践 (ハウスⅢ)	ハウスの栽培管理を一連の流れで担当 (ハウスⅢ棟目) し実践的に生産管理を行なう	15時間
	生産実習露地	露地にての栽培実習	9時間

業を地元の直売所で販売してもらい、値決めの難しさや売れた時の喜びなども経験してもらいます。他にもさまざまなありますが、農業生産法人が運営している学校ですので、なるべく現場視点で捉えられるように工夫しています。

卒業後の就農サポートも重要

職業訓練学校の目的は就農にあります。そのため、学校にとっては卒業後の就農支援 (就農先の開拓・紹介・斡旋など) も大事な役割となります。就農には、農業法人等へ就職する「雇用就農」と、自らが経営者となる「独立就農」があります。雇用就農に関しては、本人の希望をヒアリングし、就農支援相談窓口のあるハローワークに連絡をとって就農先を紹介していただきながら就農活動を支援します。また農園独自のネットワークを通じて、新しい就農先の開拓も行なっています。

独立就農に関しては、各種支援制度 (農の雇用事業、



受講生の販売実習の様子

たとえば、力量が付いてきた人には、経営を体験してもらうために、すべての管理を任せる圃場を多数設けます。仕事の段取り以外にも、普段の会話の中に、「いまの市場はどうだ」「昨日はクレームが出たけど原因は何か」など、販売面での意識も出てくるようなれば、経営者としての意識が高まっている証拠です。このように誘導できるように、意識しながらアドバイスをしないます。

独立就農のための 三つのステップ

ステップ1 ● 経営を意識した研修
「農業は経営」です。職業訓練学校を卒業後、研修生として研修期間を一年以上設け、独立後もしっかり農業経営が行なえるように経営的視点からも幅広く学んでもらいます (研修生の生活支援は青年就農給付金準備型を活用)。

青年就農給付金制度、経営体育成事業などをフルに活用し、スムーズに定着できるように次の三つのステップを考えています。

塩田にがり
食味の向上と
減農薬の実現

まるかじりしたくなる
美味しさ!!

- 光合成の働きを促し、樹勢と光沢のアップ
- 酸味の切れを良くし、コクと甘味のアップ
- 果肉が締まり、日持ちのアップ



茄、きゅうり、イチゴ、オクラ、アスパラガスなどに

塩田にがり
(生育促進液)



10ℓ入り 6,930円 (税・送料込)
20ℓ入り 12,600円 (税・送料込)

新発売

まるやかな美味しさの1日1塩
お料理・漬物・味噌・農作物に!
豊稔塩25kg 3,000円(税・送料別)

販売代理店募集!!

【発売元】

有限会社 **寺尾農園**

【資料請求は下記まで】

〒869-0455

熊本県宇土市椿原町 956

Tel.0964-22-1137

Fax.0964-22-1673

http://terao-nouen.net/

卒業生の約七割が就農!
職業訓練学校を開校して三年経ちました。これまで八

として地域に入って人間関係を築いていくうえでは重要だからです。

ステップ3 ● 共に歩いていく仕組み作り

有機農業を志す新規就農者にとっては、生産現場にしながら販路の開発を同時に行なうことは大きな課題です。そこで新規就農者には山口農園が持っている販路の紹介や仲介なども行なっています。

今後は、マーケティング開発も踏まえたグループ化を行ない、定期的な研修会などを通じて、共に歩いていく仕組みを作りたいと考えています。

(奈良県宇陀市・山口農園)

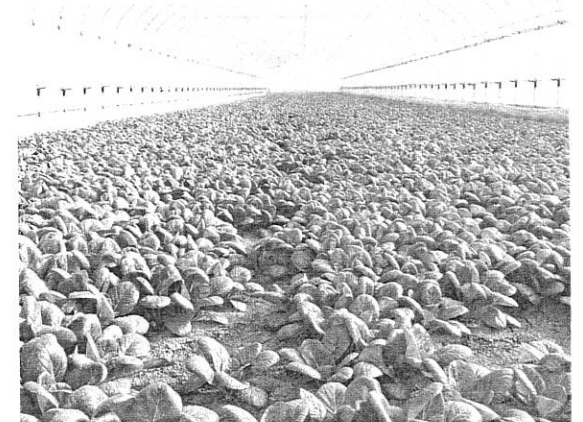
ステップ2 ● 独立して地域の人になる
ために

研修終了後、せっかく学んだ農業経営の技能や知識を活かす場所や農地がなくては何の役にも立ちません。山口農園では行政とネットワークを組み、遊休地や担い手のない農家の情報を収集し、それを紹介しながら独立の基盤作りを支援します。

独立には二つのパターンがあります。まったくゼロからスタートする「新規就農」と「経営継承型独立」です。経営継承型



ハウスを組み立てる実習の様子



有機栽培のコマツナ。とてもきれいで味もいい

風土があります。研修中から地域や村との関わり方についても伝えていきます。元氣よく挨拶することや地域活動に積極的に参加することはもちろんですが、たとえば農道を走るときにのマナーなどもあります。農道は地域の人たちが整備して作ったものが多いので、車などですれ違ふとき、地域の人を優先するようにと言っています。些細なことですが、このような意識の積み重ねが、新参者

六名が卒業し、そのうち五九名が就農しました(独立就農二七名、雇用就農三二名)。およそ七割の方がスムーズに就農し、それぞれ地域にうまく定着して経営を行なっています。また、現在は一〇名ほどが研修生として農園に残って学んでおり、彼らの八〇九割も就農すると思われれます。

グループ化計画に伴う新たな販路開発や、訓練受講生のニーズに応じた幅広い就農先の開拓など、課題はいろいろありますが、高齢化が進む地域農業の担い手となるべき研修生を今後も積極的に受け入れながら、農業の活性化を図っていきたく考えています。